

平成30年度

自己評価報告書
(専門学校東京ネットウェイブ)

自：平成30年4月 1日

至：平成31年3月31日

学校法人Adachi学園
専門学校東京クールジャパン

令和元年5月31日作成

1. 学校の概況

(1) 建学の精神

一人でも多くの学生に心の触れ合いと、あらゆる技術を向上させ、最大の満足を提供する。
そして、学園の繁栄、教職員の幸福、地域社会への貢献を目指す。

(2) 教育理念

「感動」を『感動』でつなげる学校
= 仕事に就き、ゲーム・アニメ・声優業界に輝く『人財』の育成

(3) 設置課程、学科等

法人名 学校法人 Adachi学園
学校名 専門学校東京ネットウエイブ
所在地 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-8-17
代表者 理事長 安達 暁子
 学校長 後村 幸司
課程等 商業実務専門課程 昼間部 ゲーム総合学科 2年制
 商業実務専門課程 昼間部 アニメ総合学科 2年制

(4) 学生数、教職員数

学生数 455人 (2018年度期首)
教職員数 68人 (2018年度)

(5) 沿革

1958年：大阪デザイン研究所設立（現大阪デザイナー専門学校。Adachi学園の教育事業のスタートとなる）

1967年：専門学校東京スクール・オブ・ビジネス設立（学園グループとして5校目）

*

1983年：東京スクール・オブ・ビジネス千駄ヶ谷専門学校設立（本校の前身。学園グループとして14校目）

1997年：専門学校東京ネットウエイブ名称変更（旧東京スクール・オブ・ビジネス千駄ヶ谷専門学校）

2019年：専門学校東京クールジャパン名称変更（旧専門学校東京ネットウエイブ）

2. 学校の教育目標

AO2.5年の教育制度

◎『感動』を発信できる人間力ある人財の育成

(1)学んだことを活かし、発信し反響（教育効果・成果）を上げるカリキュラムの実施

(2)産学協同、イベントの推進・拡大

学校や業界に慣れ親しみ、入学後8ヶ月で始まる就職活動の準備を行うため、AO入学ではプレスクールという入学前授業を行っている。

ゲーム・アニメ・声優業界をはじめ、企業で求められているのは“人財”である。“人財”とは、ひとことで言うと、いろいろな場面において、瞬時に判断をして顧客にとってよりよい行動ができる“考える力”をもった人物を指す。ただ単に身体を動かすだけの人や、逆に、考えるだけで行動が伴わない人は、企業の即戦力とはなりえないと考えている。専門学校東京クールジャパンではそのような教育目標に向け、学習カリキュラムを2.5年で作成し教育に従事している。

3. 重点目標および計画

産学協同の拡充

・社会で活躍できる人財の育成のためには、今の社会で通用する技術や経験を積んでいくことが不可欠である。
日進月歩で変わる業界の状況と社会のトレンドを掴んでいき、常に最先端の技術が身に付けられるよう企業と協力し合い、進めていくことを目標とする。

4. 評価の実施について

(1) 対象期間

平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(2) 実施方法

- ① 自己評価委員会を設置し、委員会メンバーを中心に評価を実施
- ② 評価項目は、専修学校における学校評価ガイドラインに則って設定
- ③ 4段階判定（4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切）
- ④ 評価項目ごとに現状、課題、今後の改善方策を記載
- ⑤ 評価後は、自己評価報告書としてホームページに公開

基準1 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1-1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
1-2 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

日本の「ゲーム」や「アニメ」は長年、海外からも注目されているカルチャーでもあり、一大産業ともなっている。専門学校東京クールジャパンでは、ゲーム業界、アニメ業界を担っていく人財育成のため、教育理念、目的を定めている。

「感動」を『感動』でつなげる学校とは、自分自身がゲームやアニメから受けた感動を忘れずに、今度は他の人のために新しい感動を生み出そうとし続ける人財育成を目指す学校ということであり、それに基づいて最新技術を身に付けながら創造性を高めるカリキュラムを作成している。企業とのつながりの中で業界のニーズもキャッチし、反映している。

②課題

教育理念や目的は、学校案内などのパンフレットやホームページなどで紹介しているが、在校生や保護者に向けた発信は、これだけでは不足しているものにとらえている。在校生や保護者、ほか関係者にとっては、時間割や年間スケジュールなどの情報や、就職実績、就職指導内容などの情報も重要であり、その伝達にも注意を払わなくてはならない現状もある。しかしながら上記のような具体的な情報も、根本にある教育理念を認識してもらうことでより深く理解されるものと思われる。

③今後の改善方策

パンフレットやホームページといった媒体だけでなく、館内の掲示、現在検討しているスマートホン型学生証など、日々目にするところへ露出を増やしていく。また教員研修、講師会などの場においても教育理念の重要性を繰り返し確認し、教職員全体が、浸透させていくという目的を共有する。

基準2 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
2-7 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-8 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
2-9 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
2-10 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-12 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-13 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

少子化、グローバル化の社会変化の影響は、この1年の中でもより顕著にあらわれてきている。具体的には、在校生の新卒、既卒、留学生の比率は特に大きな動きを見せており、運営面における変化への対応を余儀なくされている。そういった状況の変化に応じて、学園全体として、AO2.5教育や学生（特に留学生）サポート体制などの運営方針を立て、教職員の人員増強などを盛り込んだ事業計画も策定しているが、定着には時間がかかっている。年ごとの状況に合わせて流動的に対応しているのが実情である。

②課題

先述の通り、情勢の変化に対応しながらの運営を行っているため、定着するまでには今しばらくの時間が必要である。その中でAO2.5教育、業界EXPOといった学園独自の改革も芽を出し始めている。情報公開については整備が遅れており、ホームページなどにおいて総合的に示すことができていない。校名の変更もあり、教育内容の更新はされているが、公開するところまで至っていないのが課題。コンプライアンス体制については、業務上の注意は行っているものの、マニュアル化、組織体制化は未整備である。学生管理システムは、学園全体が翌年に向けて改革をしているところで、現状は複数のデジタルシステムと、出席簿などの手書きのシステムとが混在している。

③今後の改善方策

現在、組織体制の確立、システムの更新、情報の整備、Web公開化の準備などを進めている。これらの案件が進行していけば順次状況は改善されていくものと考えている。

基準3 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	3-14 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
3-15 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
3-18 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
3-19 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-20 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
3-21 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-22 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-23 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
3-24 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-25 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-26 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
3-27 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

各業界への就職・デビューを念頭に置き、実習・実技を中心としたカリキュラム編成とするための会議を行っており授業への反映を行ってきた。

企業や法人契約の講師を含めて関連分野の指導が可能な講師を有している。

成績・単位の評価基準は学生に対して明文化されており、年間2回の「スチューデントエコー」という学生からの授業評価も実施している。

職員の研修は年に1度、姉妹校全体で設定されている。

②課題

業界関係者である講師陣からのカリキュラムに対するアドバイスはすでに受けているが、外部関係者へカリキュラムの評価依頼が出来ていない。

資格取得に関する授業や指導は各学科とも必須項目ではないため設定が無い。

また、各分野の先端知識や技能を取り入れるための研修は体系的に実施できておらず改善の余地がある。

③今後の改善方策

職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるための枠組みについては令和元年に制定する必要がある。外部関係者による職業教育の評価委員を早急に選出すべきである。

資格取得に関しては現状で必須ではないものの、制度改革などにより常に変化を続ける業界において資格取得が有利になるようなことがあった際に、対策講座などの柔軟な対応が必要である。

指導力向上のための取り組みに関しても同様であり、業界の現在に則したスキルには常に注意を払い、関連分野における研修会への参加を活性化し、教職員の指導力や技術向上を促すことが望ましい。

本務教員が難しい場合にも兼務教員へ講習会への参加支援を行うなどの制度を検討するべきである。

基準4 教育成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	4-28 就職率の向上がはかられているか	4	3	2
4-29 資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
4-30 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4-31 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

就職活動にあたっては学生に事前・事後の報告を求めており、キャリアサポートセンターと担任間で連携し、活動進捗の把握と指導に役に立てている。

学内説明会や卒業生講演会、ポートフォリオ展開催など学生と業界を直接コミュニケーションがとれる機会の創出を施策としている。

求人情報については就職活動用アドレス取得しており随時提供を行うと共に掲示板や授業内で紹介している。

一般常識、適性検査、マナー講座、履歴書作成講座や面接講座以外にも労働法、知的財産、ライフプランニング、国民年金等卒業後を見据えた多様な授業設定も行う。

業界を目指す上で、在学中に取得が必要になる資格・免許がない。しかしながら対応できるカリキュラムを通して技術を修得、受験可能である資格はprotools,Photoshop,Illustrator等あるため検定テキストの図書購入や受験希望者が多い場合の対策講座の設定など受験意欲向上がある学生のサポートを行いたい。

②課題

校友会組織の目立った活動実績が少なく、キャリアのあるOBOGとの交流や情報入手が困難である事から豊富な業界内でのキャリアプランや実績を在校生及び入学検討者へアピールに限りがある。

退学者対策としてHRを活用した個別面談、奨学金制度等の経済的支援の対策を講じている。

また、授業進行への遅れが生じた学生に対しての復習講座の実施や在校生や卒業生を活用したチューター制度等の運用によるケアが必要である。

また一部授業に語学サポートとして留学生担当が入り講師と学生間のコミュニケーションをフォローすることで、修学意欲の低下している学生に対して早期の対応が可能になる。

国籍問わず入学前から心理面に問題を抱える学生の増加が顕著に見受けられ、修学や就職意識や進路に少なからず影響しているケースがある。

③今後の改善方策

卒業生の入社後の状況把握のため、グローバル・キャリアデザインセンターと学務が連携して会社訪問に取り組む事により求人情報の収集、キャリア形成に必要な情報を入手し学生指導及びカリキュラムに反映する。

在学中・卒業後のコンテスト等の受賞や携わった作品のリリース、メディアでの評価などの活躍について校友会Facebook活用により情報集約して発信いきたい。

学生の抱える問題は多様化しており、よりきめ細かい個別対応に担任・グローバルキャリアデザインセンターが連携して取り組む必要がある。

各学生の指導記録の共有やカウンセリング技術向上のためのセミナー受講も検討したい。

基準5 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	5-33 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
5-34 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-35 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-36 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5-37 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-38 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
5-39 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-40 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-41 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-42 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか？	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

入学後、オリエンテーションを実施、学生生活全般、学習への取組及び履修について指導を行う。
 キャリアサポートセンターが主体となり毎年姉妹校合同で企業説明会の業界EXPO（500社）を行っており幅広い業界及び職種について知る事ができ進路決定の場にもつながる教育イベントである。
 学生募集活動の観点からも環境設備に関しては積極的に投資しており、学生からの要望を調査し、自主的学習に資する設備の整備や業界動向を意識した教育設備の充実は継続していく。
 法令に基いた健康診断の実施や感染症流行時の注意喚起は随時行っている。また日常的なケガや具合の悪くなった学生の対応は保健室で処置を行っている。
 遠方からの学生には学生寮、学生マンションを運営している企業と提携して便宜を図り、学費面では、奨学金・特待生・学費分納などを踏まえ、就学継続を第一に事務局と担任が連携して相談に応じている。

②課題

専門のカウンセラーによるカウンセリングの学生への周知と利用促進には、担任の協力は欠かせない。
 留学生には多言語対応で留学生担当が対応するがいずれも中退率低減、学修・就職意識改善の成果に結びつけるには今後の運用に力を入れる必要がある。
 本年度、部活動が発足したが指導する職員に限りがあり学校教育活動としての支援には限界が見えている。
 産学共同活動については社会活動の一環も兼ねる為、積極的に今後も推進していく方向性である。

③今後の改善方策

修学や就職意識のモチベーションについては家庭環境や保護者への働き掛けも必要と考える。
 成績表等の保護者への送付、卒業制作展・学園祭の案内等は行っているが、学内コンペや学外イベントの情報提供や意見交換の機会を設けることは学習支援の上で重要である。
 また、校友会による卒業生同士の交流や在校生支援の活動は急務であると考えている。
 活動状況の把握や卒業生の活躍などの情報集約及び窓口として、また卒業後も就職活動を継続する場合や再就職を希望する場合はグローバル・キャリアデザインセンターと連携し相談業務に対応していく。

基準6 教育環境

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-45	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

PCの定期的な更新やメンテナンス、機材・設備の追加など、学生が授業を受ける上で必要な環境については問題は無く実施している。

インターンシップについても学務とキャリアサポートセンターで連携をし、積極的なバックアップも行っている。その為にも実施の手続きや企業との連携、報告などを徹底している。

平成25年～26年にかけて、耐震補強工事を実施済みであり、緊急地震速報（校内放送）のシステムも完備している。

入学時に配布している学生手引き書（学習案内）に、災害対応、緊急避難先など記載しオリエンテーションで説明している。

毎年防災の日等の日程に合わせて、避難訓練、緊急地震速報訓練を実施している。

備蓄品として保存水、乾パン・クッキー、防災シート、簡易トイレなどを備えている。

②課題

学内の設備で作業も賄えている分、外部の実習を想定した環境や対応については経験も浅く、状況に応じた整備が必要と思われる。

今年度は、一時避難場所としていた東京体育館が工事中の為、マニュアルの変更および実施方法を検討している。

新入教職員は前回の訓練を経験していない為、事前の研修など各担当任務の確認とマニュアルの共有が必要。

備蓄品においては、在庫の確認・賞味期限のチェックなど装備品の棚卸しや管理についてのマニュアル化を

③今後の改善方策

様々な現場や環境に慣れる意味も含め、学科や専攻に特化した学外のカンファレンスやコンペなどに注目し、学生へ積極的なインフォメーションや参加を促す。

防災面では、増えている留学生に対して、教職員にも外国籍のスタッフを配置しているが、緊急時に不安を解消できるまでのフォロー体制をどのように、どこまで対応するかの方角性を検討する

備蓄品を管理方法が確立できておらず、地下の1カ所での管理している状態であるが、各フロアにスペースを確保し、分散して配置・管理方法の確立が必要。

基準7 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	7-46 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
7-47 学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
7-48 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

専属の広報スタッフと、教員とが協力体制を取り、体験入学などの学生募集活動を行っている。教員も率先して取り組むことで、専門学校東京クールジャパンが確立している教育制度「AO2.5教育」（AO入学予定者に対する入学前授業）などの情報がより具体的に伝わり、入学後のミスマッチの防止だけでなく、早期の就職活動準備につながっている。高校生の進路決定の早期化にあわせて、オープンキャンパスも高校1、2年へ門戸を開いているが、AO入学の受付、出願の受付は、東京都の規定に従い、入学前年の6/1～、8/1～を遵守している。学納金については、物価変動もある中で10年以上据え置いた状態である。

②課題

入学定員280名に対し平成30年度の実入学は220名（定員充足率78%）、総定員560名に対し在籍者数は455名（定員充足率81.2%）で、収支バランスでは問題のないレベルではあるが、定員充足率の向上は課題である。また、留学生の占有率の増加に伴い、書類、手続きの煩雑さが増していくため、対応策が必要である。

③今後の改善方策

外国籍の職員を増強することで、留学生の対応力を強化する。また、入学後のサポートも手厚くなることで、脱落の防止につなげる。

基準8 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	8-49 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
8-50 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
8-51 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
8-52 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

入学者の安定確保が財務基盤において不可欠であり、全教職員で同じ意識で取り組んでいる。学生や業界のニーズにこたえるべく、教育内容の充実を図り、学科、専攻、コースの再編などを踏まえて予算計画を策定している。予算執行においては、規定に従い執行担当者が事務長および学校長の承認を受けて執行する。また収支予算の予測、支出状況の把握を行い、バランスの取れた収支状況の実現に努めている。学園での会計監査を実施しており、財務状況についてはホームページなどで開示する。

②課題

特になし

③今後の改善方策

特になし

基準9 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	9-53 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
9-54 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-55 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
9-56 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

本年、学園グループとして全国姉妹校各校に学校監査を執り行った。人的、設備・環境面も含め多面的な調査を実施し、その改善を指示されている。

法令順守・個人情報保護について、教職員には『教員マニュアル』を配布し、前期・後期の事前の講師会にて案内・説明し理解を促している。

学生に対しても『学習案内』を配布し、法令順守・学内の規則や個人情報管理の必要性および、SNSの利用や危険サイト等の注意を促し、自己防衛についても周知している。

ソーシャルメディアガイドライン・個人情報保護規程等、体制は確立しているが、当該事項に対し教育・研修等は実施していないため、理解度については浸透を図る必要がある。

毎年、前期・後期の区切りで学生へ『スチューデントエコー』（授業および学生生活での学生アンケート）を実施し、自己評価・点検に還元している。

今年から自己評価結果をwebで公開できるよう進行予定。

②課題

学園グループの学校監査にて、機材管理、物品配置面での指導を受けており、その改善を行う。

個人情報保護の研修等を実施し、意識の向上を図りパソコン等の利用規程なども整備する。

継続して自己評価を行ない、問題点の改善をしていく。

③今後の改善方策

PCを使用する授業がほとんどであり、近年のウィルスやハッカーの問題が高度化・複雑化しており、その対策や防衛が必要。また学生に対しても注意喚起や学内でのPC利用ルールの徹底を図るシステムと環境整備を徹底していく。

基準10 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
		4	3	2	1
10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2	1
10-58	学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
10-59	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

学校の所在地となる千駄ヶ谷商店街商工会に所属しており、夏祭り際には学生によるボランティアを兼ねた模擬店の運営などを引き受けているほか、ショップCMの制作、地域のPRのためのデザインコンペへの在学生の参加など地元自治体と密接に関わりを持っている。

平成30年度には産学協同の一環で渋谷税務署から確定申告PRのためのアニメーション制作を受託。

令和元年にはJR千駄ヶ谷駅からの依頼をもとに、オリンピック会場となる新国立競技場へ訪れる来場者も含めた観光客へ向けて地域の散策マップ映像を制作し、令和2年に千駄ヶ谷駅にて公開予定。

②課題

現状での地域貢献は十分になされているが、学校の特色を上手く利用した案件が中心となっている。

地域に対する教育訓練は教育イベントとして地方でのワークショップなども毎年実施しているが、学園祭などのイベント時には地域住民の来場は少ないため、学校の一般開放日にワークショップを実施するなどの交流も検討するべきである。

③今後の改善方策

地元自治体などから専門分野での教育指導の依頼があった際に受託できるよう、地域に開かれた学校づくりも視野に入れて運営を行う必要があるか検討を行う。

また、ボランティア活動に関しては学生の有志が中心となっており、参加を支援するための制度に関しては設定がなされていないため、必要に応じて授業外でのボランティア活動の単位認定などを制定する必要があるか検討を行う。

基準11 国際交流

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	11-60 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
11-61 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
11-62 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-63 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

留学生の受け入れは学園本部と本校の留学生担当が定期的なミーティングを行っており入国管理局への報告も徹底、適正校として認定されている。

日本語学校訪問や学校視察・見学の受け入れのほか、教員が日本語学校に出向いて専門分野の授業を行う活動も積極的に実施している。

また学外のガイダンスでは母国語対応をすることでより理解を深めて頂くと共に適切な対応ができるような配慮をしている。

入学後は留学生オリエンテーションを実施、マニュアルを配布の上、学修やビザに関する諸手続き、学生生活全般のほか法令遵守の立場からも周知をおこなっている。

しかし入学前授業への出席率や入学後の教育イベントへの出席率は高くないことから、業界及び学校への理解を深め、早期から目標設定や将来像をより描く事ができるような対策の必要性を感じている。

②課題

帰国後、母国で活躍している学生の情報の把握が難しい状況があったが、スタッフの充実により多言語対応が可能になるため、学生作品や産学共同実績をHP等SNSを活用して発信していき教育到達レベルの高さを紹介していきたい。

また、留学生が抱える言葉の理解や文化や生活面の違いにより生じる問題に対してタイムリーな情報把握ができておらず、学費延滞や出席不良に繋がるケースも見受けられたので、その対策も検討する。

③今後の改善方策

2019年度よりグローバル・キャリアデザインセンターを設置し、学科ごとに留学生担当を配置、専門スタッフとして育成をしていく。

募集活動から入学後の在籍管理・出席管理、進路相談、国内及び帰国後の活躍の情報収集ができる体制を一元化することで学校計画とその達成を目指す。

姉妹校の日本語学校・システム桐葉外語と連携を行い留学生交流会を合同開催、留学生内定者の活動エピソードや作品紹介により必要な技術レベルを明解にすることは、間接的に業界の最新情報の収集も可能にする。

結果的にそれに基づいた最適な作品制作に臨むことができる提供の機会になり、継続目的に少なからず影響するはずである。

また、日本語学校学生を通して各国の社会ニーズを捉え募集活動に役に立てていきたい。

5. 評価項目の達成及び取組状況と総合評価

全63項目中、「適切」…31、「ほぼ適切」…28、「やや不適切」…4、「不適切」…0であった。「ほぼ適切」が半数以上を占めているのは、実質的には取り組んでおり、結果や実績も伴っているが、情報の未整備、業務効率化の遅れ、新規体制の確立途上、目標数値の未達成などがあり、改善余地ありとしてある。

「やや不適切」の4項目は、情報公開（2-12）、自己評価（9-55,56）の不備についてと、「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」（3-21）である。これらの取組みはまだ不十分であり、優先度を高める必要がある。

全体としてはおおむね適切に学校運営をしている。社会の変化に対応しつつ教育目標の達成をするための、新規の活動や人員の増強などの改善プランも、的を射たものになっている。入学定員の充足や財務については、安定した学校運営に欠かせないものだが、現状としてはバランスが取れており、改善の余力も出せるものと思われる。

資料1-1 課程・学科編成（平成30年5月1日現在）

分野・課程名	昼夜別	学 科 名	修業年限	入学定員	総定員
商業実務 分野 ビジネス 専門課程	昼間部	ゲーム総合学科	2年	200名	400名
	昼間部	アニメ総合学科	2年	80名	160名
		計		280名	560名

資料1-2 学生数（平成30年5月1日現在）

分野・課程名	昼夜別	学 科 名	1年	2年	合計
商業実務 分野 ビジネス 専門課程	昼間部	ゲーム総合学科	144名	139名	283名
	昼間部	アニメ総合学科	78名	94名	172名
		計	222名	233名	455名

資料2 教職員（平成30年5月1日現在）

専任教員数
17名
兼務教員数
51名
事務職員数
3名